

流行性耳下腺炎は、耳下腺などの唾液腺が急に腫れてくることを特徴とする疾患で、「おたふくかぜ」ともいわれます。おたふくかぜは、無菌性髄膜炎\*を併発したり、永続的な難聴の原因にもなるので、注意が必要です。成人では、精巣炎や卵巣炎などの合併症を併発することがあります。春から夏にかけて幼児から学童に多くみられ、保育所、幼稚園、小学校での流行が多くなります。おたふくかぜは、学校保健安全法施行規則で第二種の感染症に分類されています。

\* 無菌性髄膜炎は、発熱、頭痛、嘔吐の3症状を特徴とする感染症で、さまざまなウィルスや細菌が原因で発症します。

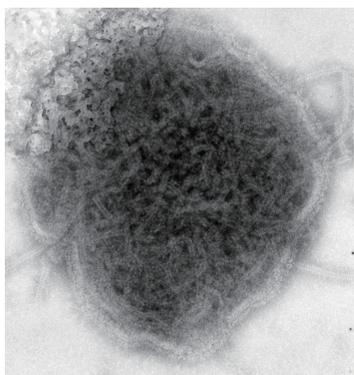


## ■おたふくかぜの症状

おたふくかぜは全身の感染症ですが、耳下腺の「はれ」が主な症状で、顎下腺などがはれることもあります。「はれ」は2～3日でピークに達し、3～7日間、長くても10日間で消えます。痛みを伴い、酸っぱいものを飲食すると痛みが強くなります。また、約100人に1人が無菌性髄膜炎を、500～1,000人に1人が回復不能な片側性の難聴を、3,000～5,000人に1人が急性脳炎を併発します。

## ■おたふくかぜの予防

おたふくかぜは、ワクチンによる予防が可能です。ワクチンの副反応による無菌性髄膜炎は2,000～3,000人に1人、急性脳炎の発症率は約25万人に1人と、自然感染時に比べて低くなっています。飛沫感染や接触感染の一般的な予防法では十分とはいえ、集団生活に入る前にワクチンで予防しておくことが、現在取り得る最も有効な感染予防法となっています。



ムンプスウィルス  
(ウィキメディア・コモンズ)

## ■おたふくかぜの原因

おたふくかぜの原因は、ムンプスウィルス。飛沫感染や接触感染で感染が拡大します。耳下腺などの唾液腺がはれる1～2日前から、はれた後5日目までが最もウィルスの排出量が多く、感染の可能性が高くなります。



参考：文部科学省  
「学校において予防すべき感染症の解説」国立感染症研究所

## ■登校（園）の基準

耳下腺、顎下腺または舌下腺の「はれ」が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで出席停止となります。

### Schoowell

“Schoowell（スクウェル）”は、子どもの保健や栄養関係の情報をまとめたサイトです。子どもの健やかを応援する、保護者の皆さま、学校教職員や医療関係者の皆さまに、健康に関する最新情報などをわかりやすく解説しています。また全国のニュースなどもまとめて掲載します。

**ぜひご登録ください。**

Schoowellでは、健康に関するテーマを毎回設け、テーマに関する重要事項の解説、最新情報などイラストを使用し、わかりやすく解説しています。Schoowellの登録会員様には、**A4サイズのPDFでダウンロード**することもでき掲示板への掲載や生徒へ配布等ご使用できます。

登録会員募集中!



まずは  
webサイト  
まで。

URL : <http://schoowell.jp>